

会派研修報告書

会派名 立憲フォーラムたじみ

代表者名 石 田 浩 司

1 日 に ち	令和元年 11月 8日 (金) 14:00～16:30
2 研修名、主催者及び会場	「立地適正化計画によるコンパクト・プラス・ネットワークの実現」 早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所研究院 客員准教授 井原雄人 主催 地方議員研究会 大阪市東淀川区東中島 1-18-22 新大阪丸ビル別館
3 参 加 者	石田浩司
4 研 修 内 容	立地適正化計画と地域公共交通網形成計画との関係 立地適正化計画の現状と先進自治体のまちづくり
5 所感、主な内容、提 言事項、課題等	平成 26 年 8 月都市再生特別措置法による立地適正化計画は、都市機能誘導区域と居住誘導区域を設定することで、人口減少・高齢化に対応するためのコンパクトなまちづくりを進める計画である。 同年 11 月には地域公共交通活性化再生法（地域公共交通網形成計画）の改正により地方公共団体が中心となり、生活拠点に福祉・医療等の施設や住宅を誘導し、公共施設との面的な公共交通ネットワークを再構築するための仕組みを構築し、コンパクト+ネットワークの実現を図ることとされている。 先進事例 富山市 富山ライトレール線 お出かけ定期券事業 65 歳以上 100 円 熊本市 基幹軸を一体的に機能するバス網 【所感】 立地適正化計画と公共交通網形成計画は密接な関係であり、車の両輪である。 多治見市の立地適正化計画では多治見駅を中心とした機能誘導区域と郊外の団地を中心とした住居誘導区域に分けられており、両地域を結ぶ交通移動手段が大変重要になる。 立地適正化計画は長期的な視点で計画策定されており、公共施設適正配置計画などは重要な視点であります。 移動手段としての公共交通網形成は、その地域の事情（高齢化やバス網など）に合わせて変化させて対応する必要がある。 コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けた取り組みは、進める上で解決しなければならない問題が多くあるが、人口減少に対応するためには避けて通れない計画であると感じた。また、立地適正化計画の中で位置付けされていない地域への対応も考えていかなければならない。

6 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。